

# 創学舎ニユース

No.256

## 卒業おめでとう



別れと出会いの季節です。君たちと出会えたのは保護者の方々のおかげです。本当に感謝です。君たちの澄んだ瞳を見られなくなるのはさみしいけれど、どうかその目でずっと未来を見続けて下さい。卒業おめでとう。  
(五日市浩)

贈る言葉  
合格おめでとうございます。高校合格はゴールであると同時に次のステップへのスタートでもあります。より難しくなる授業に備え、早いうちから準備しておきましょう。  
(岸上龍馬)

今まで頑張ってきたことはこれからの人生できっと役に立つでしょう。ここまで成長できたのは、自分の努力と周りの人(特に両親)のおかげでしょう。感謝と努力を忘れずこれからの人生を歩もう！  
(松永弘文)

人生にいくつかあるステップをみなさんは終えました。この経験を生かして、次のステップに向けて頑張ってください。  
(岡本武)

厳しい試験を乗り越えた君達なら新たな試験にも逃げることなく戦っていけるはず。自信を持って進め！  
(加藤純一)

険しい山を越えた先には何が見えましたか？そこからの眺めを忘れずに、一生に一度しかない三年間を過ごして下さい。  
(唐木洋平)

お疲れ様でした。新しい生活に入り、君達が君達にとっての大切な何かを見つけてくれますように。  
(浅野竜丸)

(浅野竜丸)

(小林紀子)

Congratulations!

転んだり、つまずいたりしながらも一つのハードルを飛び越え、一歩踏み出せたみんなへ。

さてと、終わりの始まりです。くよくよ悩んでも、くよくよ悩まなくても、人生は一度しかありません。自分のやりたいことを思いきりやって後悔しても、後悔しなくても良いと思います。ただし、自分の考えと責任を他人に押し付けないこと。  
卒業おめでとう！  
(光井正尚)

卒業にあたって  
卒業・入塾おめでとう。新たな挑戦の機会を手に入れたこともおめでとう。自分の力を思いっきり試してみよう。  
(飯塚晴海)

(飯塚晴海)

「ちよつど波のようにさよならが来ました。言葉はもう何もいらない。ただ見送るだけ。」私もあなた達から、たくさんのごとを教わりました。本当にありがとうございます。そして、卒業おめでとう！  
(関憲吾)

本当にお疲れさまでした！しばらくはゆっくり休んで下さい。この一年は、みんなにとって大きな財産になったと思います。高校入試はゴールではなく通過点です。また3年後にはもっと大きな壁が待っています。卒業おめでとう。  
(鈴木学)

(鈴木学)

今回の受験を通して、嬉しいこと、苦しいこと、悲しいこと、嬉しいこと、楽しいこと...様々な感情を味わったと思います。その時々は大変だったと思いますが、それをくぐりぬけてきたからこそ、皆さんは成長したのです。高校生活さらなる飛躍を祈っています。  
(白石浩二)

(白石浩二)

「卒業おめでとうございます。受験を通して学んだ『合格を目指す』、自分から一歩ずつ前へ進むこと』は大切なことです。これからもマイナスの出来事をプラスに変えられるよう学びながら、チャレンジしていきましょう。  
(小林英一)

(小林英一)

卒業生へ  
卒業おめでとうございます。新しい環境の中で、新しい目標を見つけ、日々、チャレンジして下さい。やりたいこと、なりたい自分、ほとんどの事は実現できますよ。  
(大場健司)

(大場健司)

知を磨きながら  
一日でも早く精神的自立をして下さい。  
(柳善一)

(柳善一)

卒業生へ  
中学校から高校へ、高校から大学へ(人によっては予備校へ)と人との交際範囲が広がります。人との出会い、人間関係を大切にしてください。人とのつながりは何よりも大切なものです。自分の可能性を追求しましょう。  
(村上静馬)

(村上静馬)

### 受験勉強を人生に活かす(1)

人生づくりに生かしてこそ真価

我々が生きていくのに必要とされている事は色々あると思います。中でも「自立」「勇気」「社会適応」そして知識・技術の習得などが重要であることはみな認めていることです。さて、受験期はちょうど一人の人間として自立を始める、いわゆる「自立期」と重なり、人間としてより善く生きる為に必要な知識や知恵を本能的に求める時期であります。そして受験は確かに、わが子の人間づくり(将来のための土台づくり)と深く結び付いているということ。受験期と自立の時期が一致しているのも、ただの偶然ではありません。受験も有意義な人生づくりに生かしてこそ初めて、その真価が発揮され、またそれができるよう、受験には人生に必要なパターンがかなり集約されていることを知ることが肝心です。それを知らずに、単に志望校に入れることしか念頭にない考え方で臨むとどうなるのか。高校生に関する最近の意識調査が、その解答です。それによると、二つの大きな特徴が指摘されています。一つは、「人間としていかに生きるか、人格をどう形成するか」を教えてほしいという本音と、もう一つは、自分を過小評価するという一般的傾向です。つまり、彼らは高校生になっても、まだ「どう生きるか」の「ど」の字も学んで(教えてもらって)いないということ。そのため、人生これからという矢先に、早

くも自分をダメ人間と評価してしまうという  
うとんでもない間違いを犯してしまうとい  
うことです。

これでは、莫大な時間をエネルギーと費  
用をかけて取り組んだ入試は一体何だった  
か、と問わざるを得ませんが、いかがでし  
ようか。

(アガトス教育研究所)

## 贈る言葉

今年も、創学舎では、小中高合わせて約  
三百人の生徒が卒業を迎えた。慣れ親しん  
だ校舎、教師、友人との別れであり、また  
新しい場所、新しい人達との出会いの始ま  
りでもある。振り返れば、様々な出来事が  
あったにちがいない。楽しいこともあつた  
るうが、それだけではなかつたはずだ。ま  
た、新しい生活のスタートを、不本意な形  
で切らなければならぬ人もたくさんいる  
と思う。そして不満と不安をかかえたまま、  
動き出せずにいるかもしれない。

そういう人達も含めて、声高らかに言お  
う。

「卒業おめでとう。」

さて、何がおめでたいのか？それはこう  
いうことなのだ。

「卒業」は何よりも、きみ達がここまで  
生きて成長してきたことを、目に見える形  
で確認する儀式なのだ。そのことを、きみ  
たちに関わってきた周囲の人々が確かめ、

何よりもきみ達が確かめるのだ。だから君  
たちの卒業を喜ばない人達がいるはずがな  
い。

「卒業」は、また、人が新しい生活に入  
っていくことを決意させる儀式でもあるの  
だ。楽しかった日々を別れを告げることを  
悲しみ、いつまでもその日々が続いて欲し  
いと思つても、それはダメなのだ。何故な  
らこれまでの日々は自分の意志と力で獲得  
したものではないからだ。小学よりは中学、  
中学よりは高校、高校よりは大学、そして  
社会…。上にいけばいくほど自分の意志と  
力がより多く、強く必要とされる。そうい  
う生活に勇氣を持つて進むことを促すのが  
卒業なのだ。

そして、「卒業」は、君たちに次の目標を  
持つことを強いる儀式なのだ。人は目標を  
持たなければ充実した生き方ができないよ  
うにできている動物なのだよ。

だから、私は祝つ。再度言おう。「卒業お  
めでとう！」

ところで、塾というのはあいまいな存在  
で、受験というハードルがあるからこそ成  
り立っているものだ。そして、そのハード  
ルを越えるという目標をきみ達もつたが  
故に、きみ達はこの塾にきた。勿論、私達  
の役目はきみ達の目標突破に力を貸すこと。  
だから、この時期になるといつも思う。私  
達はきみ達の期待に十分応えることができ  
ただろうか。きみ達の願いを私達は受け止  
められたらどうか。私達の思いはきみ達に  
伝わったのだろうか…。そしてまた思う。

きみ達に会えて本当に良かった。きみ達の  
顔も声も涙も笑顔もしばらくは忘れないだ  
ろう。何よりきみ達は、昔の私と同じく、  
人生の目標を探し、その目標に向かう同士  
であった。(私達は今も道を求める者であ  
る。この先もずっと…)

そういう同士であるきみ達に、先に生ま  
れた者として言うておくことがある。先に  
「卒業」は新しい目標を持つことを強いる  
儀式であると書いたが、目標を持つて生き  
られるということは、人が幸福になるため  
の大切な条件のひとつである。ただ、目標  
を持ち続けることは大変なことで、若いう  
ちはともかく、社会に出て働くうちに、目  
標をもてなくなる大人は多い。もう何十年  
も目標など持たずに生きていく大人がたく  
さんいるが、きみ達は決してそういう人間  
にならない。勿論、その目標が社会の害にな  
らないか、自分の片寄つた感情によつてゆ  
がめられていないか、厳しくチェックする  
眼は持つ。その上で目標に向かつて精一杯  
進むことをせよ。そして、自分の能力を出  
し切る充実感を必ず手に入れる。結果を出  
し切る充実感を得たものこそ、次の目標へ  
と向かう資格を得るのだ。そして更にきみ  
達は、人生の目的をも見つけねばならない。  
前途は厳しいぞ。しかし、素晴らしいぞ！

最後に、失意の日々を送る人達(特に大  
学受験に失敗した人達)へ。人間が目標を  
見付けてそれに向ち込める機会は少ない。  
そういう機会を持ってない人達も大勢いるの  
だ。その数少ない機会に、君たちはもう一

年向かうことができるのだ。素晴らしいこ  
とではないか。不安におびえる必要はない。  
今度こそ、自分の願望を大切にし、自分の  
能力を出すことの喜びを十分に味わつてほ  
しい。きみ達には、その資格があるのだ。  
勿論、困つたときはいつでも来てもらいた  
い。健闘を祈っている。

(小林)



受験生は読め！(合格のヒケツがココにある)

勉強法・精神面のケアなどについて、創  
学舎講師陣が書いたものです。  
非売品です。希望者には無料で差し上げます。

愛の壁 お父さんお母さんあなたの愛は  
子供に届いていますか (著者 小林 憲右)

創学舎ニュースの編集責任者 小林が二  
十年間書き続けてきた記事の中から抜粋・  
加筆したものです。

浅野書店・ブックス鈴木・新星堂他全国  
書店で発売中。

卒業や転校等で創学舎を離れ方にも、ご希  
望があれば創学舎ニュースを無料でお送  
り致します。在籍していた教室までご連絡  
下さい。